

# Dリビング・UIL

JAPAN SOCIETY FOR DYING WITH DIGNITY NEWSLETTER 2013年(平成25年)7月1日発行 No.150

## 尊厳死運動の歴史刻んで



創刊号(1976年)

会報は150号



会報名新たに(1983年)



会員増を受けて(1990年)



節目の100号(2000年)



法制化求めて(2006年)

日本尊厳死協会の会報『リビング・UIL』が7月発行で150号を数えました。協会が設立された1976年(昭和51年)に創刊以来、季刊発行を絶やすことなく情報を発信し、会員さんと協会を結ぶ糸を紡いてきました。この間、終末期医療をめぐる医療環境、意識変化もあり、会報名の移り変わりにも時代の風を感じさせます。150冊の会報は並べても20cmの厚さにすぎませんが、わが国尊厳死運動の歴史が詰まっています。

協会の会員は12万5655人です(6月10日現在)

### 主な内容

- 日本LW研究会の設立………2頁
- 会費制度改定について………5頁
- 社員総会開催……………6頁
- 医療相談この1年………10頁
- 本棚遊泳……………12頁
- 支部のページ……………14~31頁

# 「第1回リビングウイル研究会」が発足



日本尊厳死協会は、患者の末期やリビングウイルのあり方を医療側・患者側の双方の立場から議論する「日本リビングウイル研究会」を設立、6月9日に都内で設立会ならびに第1回研究会の講演を行った。研究会は今後、学術的な分野だけでなく、患者・家族の心の揺れや、そのためのケアのあり方などにも取り組み、医療・福祉側と患者側が同じ土俵で議論できる場となる。尊厳死の前提となる「不治かつ末期」のあり様など、リビングウイルをめぐって山積する課題を改めてクローズアップしていく方針だ。

## 代表幹事に 岩尾理事長が就任

研究会は昨年、日本尊厳死協会の理事長に就任した岩尾氏の発案で設立にこぎつけた。尊厳死を語る上で欠かせない「不治かつ末期」の定義など学術的なテーマを議論するだけでなく、患者側の視点にも焦点を当てたことが大きな特徴だ。

研究会は昨年、日本尊厳死協会の理事長に就任した岩尾氏の発案で設立にこぎつけた。尊厳死を語る上で欠かせない「不治かつ末期」の定義など学術的なテーマを議論するだけでなく、患者側の視点にも焦点を当てたことが大きな特徴だ。

## 医療・福祉側と 患者側の双方向

めぐっては、知識の不足だけでなく、それまでの人生観などが大きく左右てくる。研究会では、さまざまな形の「末期」があることを前提に、医療・福祉側と患者側の双方向の議論が期待される。そのことによってお互いの理解が深まり、リビングウイルのあり方にも影響を与えることになりそうだ。

この日の講演会には、尊厳死に理解を示す受容医師や会員約200人が集まった。

## 第1回日本リビング ウイル研究会は東京 都・六本木の政策研

前半は富山県の松尾幸郎氏が、交通事故で全身麻痺に陥った妻のいのちと向き合った6年間を振り返りながら、尊厳死とは何かを1時間に渡って講演した(講演内容はP3)。松尾氏は長い間滞在した米国のリビングウイルについても詳しい。米国では、患者本人の判断能力が失われたときに代わって延命治療を続けるかどうかの決断をする「代理委任書」がリビングウイルとセットになっていることなどを挙げて、日本の状況に注文をつけた。

## 執筆人による シンポジウム

また、後半のシンポジウムでは、尊厳死協会の東海支部が

中心となって出版にこぎつけた「新・私が決める尊厳死」の筆者らによるパネル・ディスカッションが開かれた。病態によって異なる「末期」の定義などについて話し合った。

研究会は当面、尊厳死協会内部に事務局をおくことになっているが、岩尾代表幹事は「協会の方針にとらわれず、幅広い議論を期待したい」と説明している。今後、研究会は年に数回開かれることになっており、その内容を会報としてまとめ、研究会員の間で情報を共有することも考えている。

# — 松尾幸郎氏の講演要旨 —



約20年間の在米生活を経て日本に帰国した松尾幸郎さんの妻巻子さんは、6年前に交通事故に遭って全身麻痺に陥った。まぶたの開閉でしか意思疎通を図ることができない夫婦の絆を取り上げた「巻子の言霊」(柳原三佳著)が講談社から出版された。「死にたい」を繰り返す妻の命と向き合った6年間を振り返り、尊厳死の意味を問う。

## まぶたで意思疎通、6年を振り返り尊厳死の意味を問う

2001年の10月に帰国して生まれ故郷の富山に移り住むまで約20年間、米国に住んでいました。妻の巻子が交通事故に遭ったのは07年7月です。意識が戻ったのは2週間後でした。手足だけでなく首も動かない全身麻痺状態です。人工呼吸器に横隔膜ペースメーカーがなければ、自分で生をつなぐこともできません。泣くときも、涙は目から流れません。口から洪水のように流れてくるのです。

そういう巻子も、目をパチパチすることだけはできます。ただ、それだけではボタンを押さなければならない会話補助器は役に立ちません。あるとき、目を開閉したときに会話補助器のボタンを私が代わって押すことを思いつき、試してみました。初めて巻子がつづった言葉が「まみいを ころして ください」でした。事故から2年9ヶ月が過ぎています。その後も何度も「死にたい」を繰り返しています。彼女の綴った言葉を「巻子の言霊」として記録しています。

私がリビングウイルを知ったのはニューヨークに住んで10年くらい経ったころです。遺言書をつくると弁護士事務所へ行きました。リビングウイルも作りなさいとアドバイスを受けました。医療費の高いアメリカでは、延命措置をすれば莫大な請求がきます。妻も子どもも路頭に迷うことになります。だから米国では41%の市民がリビングウイルを持っているのです。

リビングウイルとセットになっているのが「Health Care Proxy」。いわば「代理委任書」です。自分に

判断ができなくなったら、妻に、それもダメな場合は娘にという具合に、判断を委ねるのです。このふたつがセットになって始めて効率的に機能する文書になるのです。なぜ日本では、これを参考にしないのでしょうか。

最近気がついたことです。「尊厳死」という言葉は万国共通ですが、日本のそれは自然死に近いものです。英語では積極的安楽死も含みます。

いま日本で準備されている尊厳死に関わる法案は、医者の免責だけを求める法案だと批判があると聞きました。米国のニューメキシコ州の法律では、刑法、民法、行政上の免責を認めていますが、同時に損害賠償の責任を負うことにもなっています。つまり、患者の自己決定権に反すれば、損害賠償の対象となるわけです。あくまで個人の自己決定権が最優先するのです。これが日本の法案には含まれていないのは、なぜなのでしょうか。でないと患者の自己決定権は守られません。

米国では、さらに次の一手が打たれています。Physician's Order for life-sustaining Treatment(POLST)。直訳すると「生命維持装置に関する医師の命令書」とでも言うのでしょうか。医療従事者が末期患者の生命維持装置の扱いについて、患者の意思を確認してつくる文書です。患者の意思が明らかなので、他の医師にもわかりやすいのです。

最後に親鸞上人の短歌を詠んで締めくくります。  
「明日ありと 思う心の仇桜

夜半に嵐の吹かぬものかは」

「新・私が決める尊厳死」執筆者とのシンポジウム

## 活発な質疑で問題点・課題が浮き彫りに

松尾幸郎さんの講演に引き続いだ、研究会の長尾和宏副代表幹事を座長に据えた、「新・私が決める尊厳死」の筆者5人とのシンポジウムが開かれた。

岩田充永・藤田保健衛生大学総合救急内科准教授、葛原茂樹・鈴鹿医療科学大学教授、三浦久幸・国立長寿医療研究センター在宅連携医療部長、渡邊有三・春日井市民病院長、難波玲子・神経内科クリニックなんば院長の5人がそれぞれの専門分野について、回復不能な「不治」と、最期を迎える「末期」の定義について15分ずつ講演した。

会場からは、質問が相次いだ。大学病院の腫瘍センター長は、「大学病院でも、リビング・ウイルに対する医師の意識は高くない印象がある。医師に対する卒前、卒後の教育での啓発が不十分だ。その医師教育について意見を聞きたい」との要望があった。

これに対してパネラーの渡邊氏は、臨床研修病院の病院長の立場から「若者との意識のギャップに驚くことがある」とし、こんな例を挙げた。「(患者やその家族の意思を確認して心肺蘇生法をしない旨の指示書である)DNARを取る時に、家族の誰から、いつ取ったか。さらにどういう過程で家族と話したかなどが、ほとんど書かれていません。卒前教育の段階からやっておくべき課題だ」と指摘した。

座長の長尾氏が腫瘍センター長に「大学病院でそういった教育について決意のようなものがあればお聞かせ願いたい」と促すと、腫瘍センター長は、「臨床倫理のような枠をもらって卒前教育の充実を図っている。今年から医学、歯学、看護、歯科衛生士と一緒に勉強する機会を設けたが、明らかに看護の意識が進んでいる。医師も刺激を受けているので、そういう試みも続けていきたい」と答えた。

一般の会員からも質問が続いた。尊厳死協会の男性会員は、「救命処置から延命処置に移る場合、患者が尊厳死を望んでるのに延命処置を止められないのは法制化

が実現していないためか」と尋ねた。

これに対して岩田氏は、「延命処置が始まった時に止められるかと言えば、論理的には治療の中止をすることはり得る。だが一度、治療のために入れた管を抜くかどうかは、法的に訴えられるかどうかは別に、医師として抵抗がある。これ以上の薬剤の投与は止めようとか、呼吸が弱まても人工呼吸器の設定を上げないことはできる」と答えた。

さらに長尾座長が、「救命処置と延命処置と混同されることがある。法制化は延命処置の方で、その切り替えは非常に難しい」と、昨年、脳幹出血で意識不明に陥ったミュージシャンの桑名正博さんが107日目に亡くなったことを例に挙げた。「救急や脳外科の医師に聞いたら、この107日間は『救命処置』だという意見がほとんどだった」と「救命」と「延命」の食い違いに疑問を投げかけると、岩田氏も「意識不明の人が救急車で運ばれてきて、CT検査するまで呼吸が持たないと思ったら、人工呼吸をしながら検査をする。脳幹出血と判明して手術も不能なら、そこから先は延命治療だという感覚を持っている」と答えた。

難波氏は「法律的には、一定の条件を満たせば人工呼吸器を止めることができると法律家は言うが、現実には、患者の家族の中には、告発する人もいる。法律的に保障されないと、どうしても医療側は躊躇してしまう」と医師の免責を盛り込んだ法制化を求めた。

また別の男性会員からは、「なぜ患者本人の同意がないのに人工呼吸器とか、胃ろうとかができるのか。海外とくらべて患者の希望が通らないのが日本の現状だ」と怒りを込めての発言もあった。

### ►► 医師の呼称は「先生」ではなく「さん」で ◀◀

これに先立つ研究会の設立幹事会で岩尾總一郎代表幹事は、医師に対する慣例的な「先生」という呼称を使わずに、「さん」で呼び合うことを確認した。医師だけでなく、介護・福祉現場や看護師、それに患者側の多角的な視点が必要で、同じ土俵で議論するため、医師だけを「先生」と呼ぶ習慣を改めることにした。

挨拶、来賓の愛知県医師会の山本脩副会長が祝辞を述べた。

執筆者10名が紹介されて挨拶し、うち「認知症」を担当した三浦久幸・国立長寿医療研究センター部長と、「回復不能な遷延性意識障害」の葛原茂樹・鈴鹿医療科学大学教授がミニ講演をした。本は4月1日、5千部を発行し、同月末に5千部を増刷した。

### ■『新・私が決める尊厳死』執筆者と交歓 ■

名古屋で『新・私が決める尊厳死』の出版記念会出版記念会開く 「筆者講演と懇親の夕べ」が4月28日、名古屋市内で開かれ、120余名が出席して執筆者と交歓した。岩尾理事長が「出版1か月で増刷するなど新書籍の反響は大きい」と

# 80歳以上会費減額制度を廃止します ——来年4月から実施

## 現在、減額適用の方は変わりません

協会財政の改善を図るため、会費制度のうち80歳以上会員を1千円とする「会費減額」を廃止することが6月8日の第3回定時社員総会で決まりました。

新会費制度は表の通りで、2014年4月1日実施です。現在減額適用を受けている会員と、来年3月までに80歳に到達して適用を受ける会員は来年度以降も減額会費のままであります。なお、来年4月以降、80歳になられる現会員は通常会費となります。

### 【新会費制度と運用(2014年4月から)】

会費	年会費	個人: 2千円	夫婦: 3千円
運用	終身会費	個人: 7万円	夫婦: 10万円
▽減額制度廃止実施日(14年4月1日)以降入会の新規会員および新しく80歳を迎える既存会員から適用			
▽実施日前に減額制度の適用を受けた会員については現行どおり減額会費を継続			

現行会費制度は2007(平成19)年4月に改定実施され、80歳以上の会費減額制が導入されました。高齢会員の負担軽減を図るとともに飛躍的な会員増加を期待したことでしたが、この5年間の会員増は実質約6500人にとどまっていました。

この結果、協会財政の一般収支は2007年度から赤字決算が続き、事務局スリム化、支部活動費削減など支出抑制に努めながら、協会財産である繰越金の取り崩しで赤字を補てんしてきました。

### 健全財政、年齢による会費格差是正めざす

財政健全化は、昨年協会のあり方を検討した基本問題調査会でも大きなテーマでした。協会は収入をほとんど会費収入で賄っており、収入改善が必要でした。現在、会員1人当たりにかかる出費は年約1500円で、減額会費1,000円適用者は44%を占め(1年前は42%)、今後も増える勢いです。

基本問題調査会は「収支バランス改善と公平性の観点から会員年齢による会費格差是正」を提言、これを受けて社員総会でも減額制度廃止が決定しました。

社員総会で岩尾總一郎理事長は「収支バランスを保って、健全財政に支えられる活動をより盛んにするため、減額制度廃止に踏み切りました。協会活性化で会員皆さまの付託にこたえていきたい」と述べました。

会費改定につきましては、来年4月実施前にも会報で説明、ご案内いたします。

### 法制化の動き

#### 尊厳死法制化議員連盟

### 第2案への賛成に集中 議連が政権交代後の初会合

始めないことを前提としている。これに対して第2案は、「延命措置の中止等」として延命治療を打ち切ることにまで踏み込んでいる。

会場からは「緩和ケアを含めた消極的な安楽死は、すでに医療現場では行われている。医師の責任が問われないように運用してもらいたい」など、第2案を推す声が圧倒的だった。

一方、今回初めて出席した議員からは「末期の定義がよくわからない。もう少し目に見えるような形で議論したい」などという初步的な質問もあり、政権交代が続く政治の場で、同じテーマを議論していくことの難しさを浮き彫りにした。

この日の総会では主に「終末期の医療における患者の意思の尊重に関する法律案」の第1案、第2案について意見が交わされた。

第1案と第2案の大きな違いは、法律の定義について第1案が「延命措置の不開始」と、新たな延命措置を

## 第3回社員総会

任期で全理事改選  
収支決算を承認  
会費規程を改定

(うち委任状出席25)、会費制度改定、任期終了による理事改選など4議案を異議なく承認可決した。社員総会後開かれた新理事会では、代表理事(理事長)に岩尾總一郎氏の再任が決まった(任期2年)。

社員総会(写真)で岩尾理事長は「基本問題調査会で協会の諸問題を検討したが、その答えをひと言で



いえば“協会の活性化”である。それが一つ一つ目に見える年にしたい」と挨拶した。

議事では、2012年度事業報告・決算、2013年度事業計画と収支予算を報告、次の4議案について審議し、承認した。

1号議案=2012年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認

2号議案=理事選任(任期満了で改選)

3号議案=定款一部改定(基本財産の適正管理)

4号議案=会費規程の一部改定

### 「終身」で会費収入増も、続く赤字体质

決算・予算関係(5月理事会で承認済み)については藤嶋理事(財務担当)が説明した。1年間の経営成績を示す正味財産増減計算書が総会議案だが、会報ではわかりやすい収支計算書(次頁)を掲載した。

会員の代表である代議員による第3回定期社員総会が6月8日、東京・本郷のホテル機山館会議室で開かれた。68代議員が出席

**【2012年度決算】** 収入の核となる会費収入は終身会員の増勢などで約1億6千万円と伸び(前年度比約1千万円増)、他に2千万円の大口寄付があった。支出は書籍出版で予算より約600万円増えたが、収入増に支えられて経常費は黒字決算となった。

**【2013年度予算】** 会費収入は会員増を見込み1億6512万円を計上するが、一般経常費の収支で約2600万円のマイナス。また本部事務所移転、新会員管理システム構築で生じる投資活動費支出を加えると全体で約5300万円の赤字予算編成を余儀なくされた。

### 基本財産の適正管理を図る

なお、財政にも関係する定款変更(第3号議案)は、任意団体時代から蓄えてきた正味財産の一部を一般社団法人法が定める「基本財産」として位置づけるもの。その適正管理をはかるため、処分等には理事会の特別決議(3分の2以上の賛成)を必要とするとした。正味財産のうち5億円を基本財産に設定することが理事会で承認されている。

質疑応答では、代議員から監査について「企業経営では会計監査より業務監査の方に力を入れてきている。社団法人の協会では会計監査はしっかり行われていて総会に監査報告が提出されているが、来年度から業務監査についても報告書を提出してほしい」と要望が出された。

### 新理事は6氏、理事改選

—— 井形、大田、波多野氏ら退任 ——

任期(2年)満了を迎えた理事が改選された。新たに選ばれた24人は重任18人、新任6人。

長らく尊厳死運動の第一線に立ってきた井形昭弘(前理事長)、大田満夫(副理事長、前九州支部長)、波多野ミキ(副理事長)、高井正文(前本部事務局長)、船橋晴雄、三輪繁の6氏は退任した。

役員一覧は8頁、業務執行理事の担当業務は32頁に。



## 一般社団法人 日本尊厳死協会 2012年度決算及び2013年度予算

△=支出超過（単位:円）

科目	2012年度予算	2012年度決算	2013年度予算
<b>I 事業活動収支の部</b>			
1.事業活動収入			
①特定資産運用収入	0	512	0
②会費収入	153,610,000	159,983,660	165,120,000
③事業収入(販売事業)	490,000	492,460	567,000
④寄付金収入	2,350,000	22,987,246	2,335,000
⑤雑収入(受取利息等)	350,000	2,730,402	797,000
事業活動収入計	156,800,000	186,194,280	168,819,000
2.事業活動支出			
①事業費支出	82,389,000	87,013,977	98,672,000
②管理費支出	91,108,000	92,596,229	96,330,000
事業活動支出計	173,497,000	179,610,206	195,002,000
事業活動収支差額	△16,697,000	6,584,074	△26,183,000
<b>II 投資活動収支の部</b>			
1.投資活動収入			
①特定資産取崩収入			
退職給付引当預金取崩収入	473,000	3,048,000	3,368,000
調査研究特定預金取崩収入	0	6,753,965	0
②敷金・保証金戻り収入	0	0	7,736,800
投資活動収入計	473,000	9,801,965	11,104,800
2.投資活動支出			
①基本財産取得支出			
定期預金取得支出	0	500,000,000	0
②特定資産取得支出			
退職給付引当預金支出	1,590,000	1,727,015	2,063,000
調査研究特定預金支出	0	20,000,512	0
③固定資産取得支出			
建物付属設備支出	0	0	1,742,000
什器備品購入支出	200,000	0	8,334,000
ソフトウェア購入支出	500,000	0	20,782,000
④敷金・保証金支出	0	0	4,066,020
投資活動支出計	2,290,000	521,727,527	36,987,020
投資活動収支差額	△1,817,000	△511,925,562	△25,882,220
<b>III 予備費支出</b>	1,000,000	0	1,000,000
当期収支差額	△19,514,000	△505,341,488	△53,065,220
前期繰越収支差額	729,618,205	729,618,205	224,276,717
次期繰越収支差額	710,104,205	224,276,717	171,211,497



## 一般社団法人 日本尊厳死協会 役員名簿

(2013年6月現在)

○印は新任

役 職	氏 名	職 業	
名誉会長	井形 昭弘	医博、名古屋学芸大学学長	(愛知)
顧 問	牛尾 治朗	ウシオ電機会長	(東京)
	扇 千景	元参議院議長	(東京)
	奥田 碩	元トヨタ自動車会長	(愛知)
	吉永みち子	作家	(東京)
理 事 長	岩尾總一郎	医師、慶應義塾大医学部客員教授	(神奈川)
副理事長	青木 仁子	弁護士、東海支部長	(愛知)
	鈴木 裕也	埼玉社会保険病院名誉院長、関東甲信越支部長	(埼玉)
	長尾 和宏	医師、医療法人社団裕和会理事長、関西支部長	(兵庫)
常任理事	○ 安達 俊郎	本部事務局長	(東京)
	金川 琢雄	金沢医科大学名誉教授、北陸支部長	(石川)
	川合 昇	元会社役員、北海道支部長	(北海道)
	古賀 順子	前家裁調停委員	(愛知)
	○ 信友 浩一	九州大学医学部名誉教授	(福岡)
	野元 正弘	愛媛大学医学部教授、四国支部長	(愛媛)
	橋村 裕	元新聞社論説委員、東北支部長	(宮城)
	原 信之	医師、(財)県すこやか健康事業団会長、九州支部長	(福岡)
	藤嶋 喬	会社役員、元銀行役員	(東京)
	古田 隆規	弁護士、元日弁連副会長、中国地方支部長	(広島)
理 事	稻子 俊男	元飲食店経営	(埼玉)
	江端 英隆	札幌徳洲会病院名誉院長	(北海道)
	納 光弘	医師、公益財団法人慈愛会会长	(鹿児島)
	○ 小澤 和夫	吹田ホスピス市民塾会長	(大阪)
	小原 芳郎	団体職員	(神奈川)
	丹澤 太良	元会社員	(東京)
	○ 畑中 治朗	社会福祉法人役員	(京都)
	○ 波多野幾也	著述業	(長野)
	山村 均	医師、岐阜病院理事長	(愛知)
	○ 吉成 健吉	会社員	(東京)
監 事	石原 光義	公認会計士	(神奈川)
	茂木 敬司	会社顧問	(東京)
	和田 義博	公認会計士、税理士	(東京)

# 会報150号の歩み ~社会的な認知とともに~

日本尊厳死協会の会報「リビング・ウイル」が7月発行号で150歳を迎えた。会員と協会を結ぶ情報誌として親しまれてきた150冊の小冊子のエピソードを記した。

## 創刊号で高らか、『文明国宣言』

1976年3月10日発行の『安楽死会報』1号はB5版サイズで8頁。巻頭言で太田典礼理事長は高らかに「世界で協会のあるのはイギリス、アメリカの2国だけ。これで日本も文明国に加わった」。安楽死協会として1月発足したばかりで会員は百数十人。小さいなりにも、誌面から昂ぶりが伝わってくる。

## 会誌名にも「尊厳死」うたい

設立数年を経ても会員数千数百人で厳しい前途。積極的安楽死団体との誤解を除こうと1983(昭和58)年10月、協会名が日本尊厳死協会に変更され、31号から会報も『尊厳死会報』に。草創期の会報には、尊厳死理念に馳せ参じた医師、法律家、学者の論文、研究発表が多く、協会も論客ぞろいだったよう。

## LW尊重の時代迎え

1990年春の57号から、誌名が突然『リビング・ウイル』と改まる。突然、というのは協会内に説明の記録がないからだ。考えられるのはこの年初め、日本医師会が報告書で「尊厳死容認」を打ち出し、目新しいリビングウイル(LW)の言葉が社会に認知されてきた。

終末期医療を真剣に考える人の裾野も広がり、会員は1万人に達した。尊厳死運動の大衆化に展望が開け、誌

1976	安楽死協会設立
1977	米カルフォルニア州 「自然死法」施行
1979	
1980	
1981	
1983	日本尊厳死協会に改称
1985	
1986	
1987	世界医師会が 積極的安楽死を否定
1988	
1989	
1990	日本医師会「尊厳死容認」 会報名「リビング・ウイル」に
1991	東海大学付属病院で 安楽死事件
1992	
1993	
1994	
1995	
1996	
1997	臓器移植法成立
1998	
1999	
2000	
2001	
2002	会員10万人に
2003	
2004	
2005	法制化議員連盟 スタート
2006	
2007	
2008	
2009	
2010	一般社団法人に
2011	
2012	
2013	

名にも時代のキーワードになりつつあるLWを先取りしたのではないか、とみられる。20頁の会報も12頁を使って日医報告書、日本医療の歴史的転換を特集した。

## 会員増でビジュアル化

その3年後、72号(1993年末発行)のフロントは超満員の年次大会場の写真を大きく載せ、「6万人突破の広がり」とある。会報も24頁に膨らみ、会員投稿欄を常設して、意見交流が活発に広がっている。88号(1997年)からは漫画家西澤勇司さんの「ひとこま老人漫画」の連載が始まった。高齢者会員が増え、親しまれる会報をめざす「ひとこま」である。

## 100号も淡々と

会報が百歳を迎えたのは2000年12月末発行号。年次大会で講演する作家、吉永みち子さん(現、協会顧問)らイラストを飾り、講演要旨や協会の「終末期医療の提言」を掲載しての平常号。編集あとがきで「会報も100号を迎ましたが、記念号を見送りました」と淡々。海外情報、勉強に来た東大ゼミの話、LW受容医リスト、会員投稿、年会費納入のお願いと多彩な誌面づくりは150号にも引き継がれている。

## 150冊は貴重な研究資料

150冊の会報は重ねても20cmの厚さだが、尊厳死運動に限らず、終末期医療に関する研究資料の宝庫。特に「古い時代」の研究資料が少ないので、研究者や卒論を書く学生さんからの貸し出し申し込みには応じている。

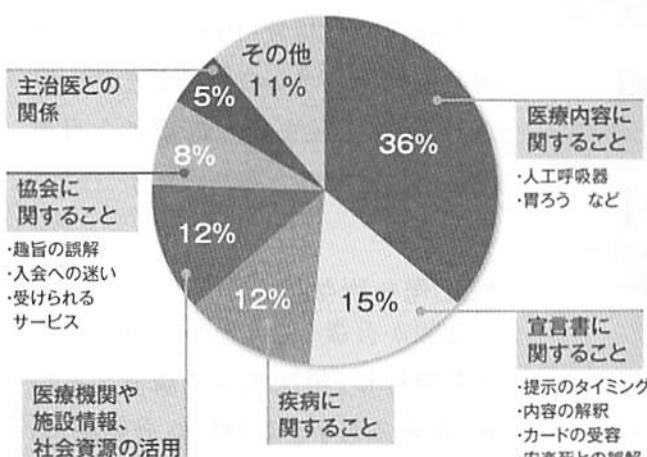
# 12年度の電話医療相談結果がまとまる



日本尊厳死協会の会員を対象として実施している「電話医療相談」の12年度の結果がまとめた。相談件数の総数は374件で、ひとりが何件かの相談内容を持っているため、総件数は532件に上った。

男女別の相談件数割合は、72%が女性で、男性は28%と圧倒的に女性が多い。相談内容をみると、医療に関することが189件(36%)と最も多く、とくに延命措置の「胃ろう」など栄養補給に関する相談が、うち70件(13%)に上る。次いで病気や治療に関するものが50件(9%)、尊厳死に関わることが43件(8%)となっている。

## 医療相談の相談内容



## 医師への遠慮や不信感

とくに多かった「胃ろう」については、医師から「胃ろう」を持ちかけられたので、「口から食べられなくなったら自然に死なせてほしい」と話していた患者の意思を伝えると、「それはできない」と断られた、といった相談も寄せられた。これに対して相談員は、家族の病状や医師の判断などを尋ねたうえで「胃ろう」の正しい知識やそのメリット・デメリットを説明、医師とどのように話し合つたらよいかなどのアドバイスをしている。

病状や治療方針などについて医師から説明を受けているものの、理解できていないケースや、主治医との関係について悩んでいる事例もあった。主治医に尋ねようとしても「聞くと怒られそう」「忙しそうで聞く耳を持たない」などの声もあり、医師への遠慮や不信感などが原因とみられる。

リビングウィルの宣言書に関しては、81件の相談があった。内容の解釈に関する相談が最も多く33件、提示

するタイミングに関するものが27件と続き、安楽死との誤解があるものも7件あった。リビングウィルを作成したものの、その内容を理解していないケースが目立つ。例えば、「十分に生きたし、今後の望みもない。迷惑をかけたくないで早く逝きたい。尊厳死カードを持っているが、死なせてくれるのか」などと悩みを打ち明けるケースもあった。尊厳死を求めるリビングウィルと安楽死との違いについて誤解があるようだ。80歳以上の高齢者や独居のために希望が持てず、目先のことになると「早く楽になりたい」と考えているからとみられる。

## 深刻な悩み、不安抱え混乱も

また、病院から転院を迫られているため、転院先の病院や受容医、在宅医を探してほしいとの相談が65件あった。受容医を紹介してほしいとの問い合わせが、うち36件と最も多い。医療施設から見放されていると感じているようで、すぐの思いで相談してくる人が少なくない。

相談者の多くは深刻な悩みや不安を抱えて混乱し、相談できる相手がないために途方に暮れて電話をかけてくるケースが目立つ。その過程では、さまざまな情報提供が必要となってくるが、医療の専門的な内容になってくると安易に答えることができない。相談員は、緊急に医師のアドバイスが必要な場合の態勢について検討していく必要がある、と指摘している。(相談内容のプライバシーに関わる部分は、相談員のみが把握しており、記事執筆者には公開されておりません)

## 医療相談

月、水、金曜日  
午後1時～5時(変更あり)

病気や医療、特に終末期医療について心配ごと、困りごとを専門の相談員がお聴きし、サポートいたします。

**0120-979-672**  
(通話無料)



『窓辺の男』(2003年制作)の印象的な場面。緒形拳演じる定年間近の男が交通事故を起こし、カーブミラーの汚れが原因と思い、全国ミラー磨きの旅に出る。その途中でけがをし、入院したのが「窓辺に海が広がる」病院。穏やかな海が男の愚直さをつつんでいた。

## あれから2年、語られる雄勝病院の壮絶

ロケに使われたのは宮城県の雄勝半島のつけ根にあった国保町立雄勝病院(当時)。海岸から20mほど離れ、3階建て2棟に40病床の小さな病院だ。雄勝町は8年前、石巻市に合併し、石巻市立雄勝病院と名を変えた。4千人に満たない地域住民の高齢化率42%。「映画になるのがうれしかった」といわれた病院が超高齢地を支えていた。

3・11東北大震災一大津波に襲われたこの病院の「壮絶」を知ると、胸が張り裂ける。その実をノンフィクション作家辰濃哲郎が『海の見える病院』(医薬経済社、2013年3月刊、1,500円税別)で記録にとどめた。副題にある「~語れなかった『雄勝』の真実」を人々がようやく口にできるまでに2年の時間を要したのである。

震災当日、病院には34人の職員(医師2人、看護師20人ら)が勤め、高齢者40人が入院していた。午後2時46分の地震発生時、出張や訪問看護で出かけた人を除いて職員28人が院内にいたとみられている。大津波は30分も待たないで高さ10mの病院屋上をも濁流で押し流し、入院患者全員の命を奪った。院内にい



海辺にある古めかしい病院。男が横たわるベッドから窓越しに穏やかな湾が見える。5月、NHK-BSテレビで見た映画「ミラー拭く男」(2003年制作)の印象的な場面。緒形拳演じる定年間近の男が交通事故を起こし、カーブミラーの汚れが原因と思い、全国ミラー磨きの旅に出る。その途中でけがをし、入院したのが「窓辺に海が広がる」病院。穏やかな海が男の愚直さをつつんでいた。

た職員で助かったのは4人だけだった。

3階の時計が3時27分で止まっていた。この間、職員が手をこまねいていたわけではない。外の様子を見に駐車場に出た副院長は「津波来る!」の声に、「患者を置いて逃げられない」と病院に戻った。

濁流はあつという間だった。3階病室の患者をベッドシーツで包んで4人で四隅を持ちあげ、やっと屋上のコンクリートの上に置いた。もう水は屋上フェンスに越えていた。患者に顔を近づけて「ごめんねえ、ごめんねえ」という職員も次々濁流にのまれ、患者もそのなかに消えた。しかし、荒れ狂う濁流にもまれる壊れ屋根によじのぼり生還、あるいは同僚と漂流しながら生死を分けた職員がいた。証言が残った。

雄勝病院の悲劇はマスコミにはほとんど取り上げられていない。作者はあとがきで「なぜ2年間、語られていなかったか」と問う。「命を守る病院で、どんな理由があるにせよ、患者を死なせてしまうのは許されない。しかも40人も」。職員が抱えたこころの闇は、他人にはうかがい知れぬほど深かった。

## 「命守る病院で…」、大津波の闇を越え

作者は現地に通い詰めた丹念な取材で「その日」の事実をつなぎ、関係者の日常まで掘り起こしている。本は単なる記録にとどまらず、ヒューマンドキュメンタリーとしての厚みが感じられる。



東北大震災で「壮絶」は枚挙にいとまがない。当時、緊急出版された『特別報道写真集 3・11大震災』(河北新報社刊、2011年刊)を開いても、あふれている。

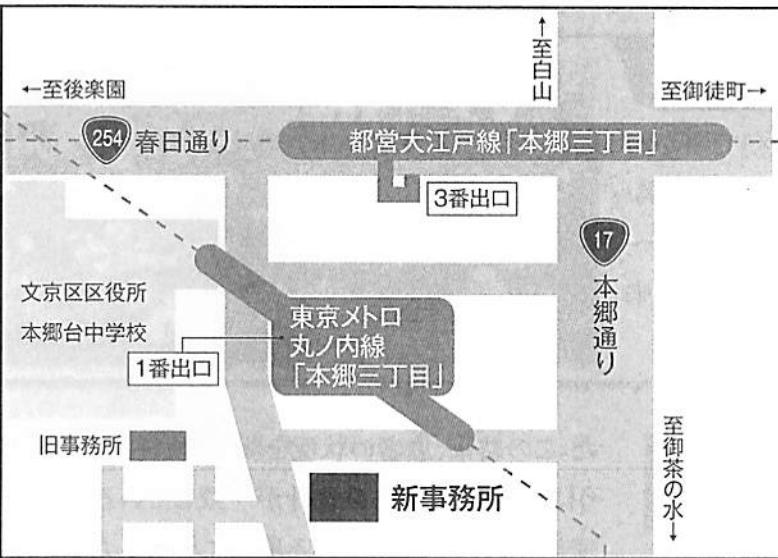
何十枚という写真に「雄勝の場面」を探したら1枚だけあった。つぶれた公民館の2階屋上に大型観光バスが載っていた。雄勝を襲った大津波の無情なまでの巨大エネルギーがわかる。「だから、仕方がなかったんだよ」と氣休めをいうのはよそう。彼ら、彼らの闇にたじろぐのは作者だけでなく読者も同じである。それでも、雄勝の地域医療が再生しつつあると知って、気持ちが少し安らいだ。

(m)

# お知らせ

## 協会本部は移転しました

一般社団法人 日本尊厳死協会の本部事務所が6月29日、現在の本部事務所近くに移転しました。7月1日からは、次の住所に変わります。



### 新住所

〒113-0033

東京都文京区本郷2-27-8  
太陽館ビル501



### 電話・FAX

電話番号は、従来と変わりません。

電話:03-3818-6563

FAX:03-3818-6562

# 北海道 支部

支部長  
川合 昇

住所 〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目6番地 37山京ビル801  
TEL 011-736-0290 メール hokkaido@songenshi-kyokai.com  
FAX 011-299-3186 ホームページ <http://h-songenshi.com>

## 北海道支部大会に300人

5月17日午後、札幌エルプラザ(札幌市北区)で開かれた第27回日本尊厳死協会北海道支部大会で中川翼・札幌定山渓病院長が『当院における終末期医療～チーム医療と意思確認』と題して講演し、約300人の来場者に深い感銘を与えました。



### 講演 抄録 「当院における終末期医療 ～チーム医療と意思確認～」

定山渓病院 中川 翼院長



人間は必ず死にます。そして苦しまずに、家族や友人に見守られながら、安らかに、最期を迎えるといふのが万人の希望です。

自宅で死を迎える場合には、見守る家族が2人以上は必要で、訪問診療医師、看護師、介護職との密接な連携が求められます。しかし、万一の時、こうした人たちが必ず駆けつけてくれるとは限りません。人が亡くなる際の厳しい状態に耐える覚悟も必要です。

これに対して、病院では家族の介護負担が圧倒的に少ないし、患者へのケアも厚いという良い点があります。その半面、患者にとって馴染みの環境でなく、本人や家族の意思がどれだけ尊重してもらえるか、お金はどうか、という気がかりなところもあります。

私たちの定山渓病院では、97年から「終末期ケアのあり方」について、本格的な取り組みを始めました。医師、看護師の幹部が月に一度集まって、亡くなった方の反省と学習会を開きました。看護職から医師への注文が多くたのですが、99年からは病棟ごとに、医師、看護師はもちろん、リハビリの療法士まで含めた全スタッフが集まって、終末期の患者へのケアを話し合い、亡くなつたあとは反省も含めた会議を必ず開くことにしました。

た。この結果、患者の状況を多くの職種で共有できるようになり、病院全体の方針が一致しているので本人も家族も安心して療養できる環境になりました。

また04年からは、患者の家族からの申し出がきっかけで「終末期意思確認用紙」を使用しています。終末期のケアについて患者と家族の意向を文書で確認するもので、栄養補給、人工呼吸、心肺蘇生など具体的な措置について必要かどうか用紙に記入してもらい、希望に沿ったケアを行います。これまでに300人近くの方に書いて頂きました。

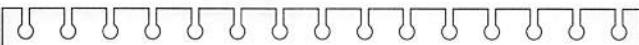
死を迎える場所、死の迎え方は自分で選ぶことができます。生前にしっかりと意思表示し、日頃家族と終末期について話し合っておくことが大切です。

### ご紹介ください!!

ご友人、知人、  
ご親戚に尊厳死  
に関心をお持ち  
の方はいらっしゃ  
いませんか？



今回の会報に同封のはがき裏面に入会案内を希望されている方の必要事項(ご夫婦様の場合は連名)を、表面に紹介者のお名前・ご住所を記入頂きポストへ投函してください。後日、当支部から入会案内を希望されている方に直接郵送させていただきます。ご協力よろしくお願ひいたします。



根本 和雄  
札幌市・76歳

## 生死一如

東洋の智慧の書「菜根譚」にこうあります。  
「死時に心を動かさざらんとせば、須らく生時に事物を看得て破るべし」（後集・二六）  
と。即ち「臨終に心を動搖せずに安らかに往生したいと思うならば、平常の存命のうちに物事の真相をよくよく見極めて生死は無常であることを心に留めておくように」というのです。

仏教学者の古田紹欽先生はこう語っています。「人間の生死は、恰も一枚の紙のようなもので、表裏一体となって一枚の紙なので表（生）ばかり見ないで、智慧を働かして裏（死）を見つめることを怠らないように」（「生きる智慧」）と。

このように、実に分かり易く「生死一如」を説いています。「菜根譚」の言葉も、「死」を忘れずに生きることの大切さに他ならないと思うのです。従って、一日一日を健やかによりよく生きることがよりも直さず安らかな死を迎えることではないでしょうか。

イタリアの芸術家レオナルド・ダ・ヴィンチはこう述べています。

「私たちは生きることを学ぶつもりであったのに死ぬことを学ぶのであろうか。よく過ごした一日が安らかな眠りを与えられるようよく用いられた一生は安らかな死を与える」（「手記」上巻）と。

死を恐れずに、しかも生を貪らずに、よりよく生きて安らかに旅立ちたいと切に願うのです。

※投稿(500字程度)をお待ちしております。

# 北海道支部 懇話会通信

## 石狩南部地域懇話会

会長 落野 章一

●8/4(日) 夏季研修会 13:00~15:00

千歳市社会福祉協議会2階会議室

テーマ:尊厳死とは? 皆で語りませんか。

## 函館地区懇話会

会長 池田 広平

●7/10(水) おしゃべり広場 13:00~

函館市総合福祉センター

●9/11(水) おしゃべり広場 13:00~

函館市総合福祉センター

## 北広島地区懇話会

会長 篠塚 幸雄

●7/23(火) 研修旅行 15:30帰着予定

滝野すずらん公園・支笏湖国民休暇村温泉

8:50JR北広島駅東口(芸術文化ホール横)集合

9:00出発。参加費1,000円

## 旭川地区懇話会

会長 柴田 笑子

●10/6(日) 秋の公開講演会 13:30~

勤労者福祉会館

## 帯広とかち地区懇話会

会長 鎌田 利道

●出前講演会 講師:会長 鎌田利道

【第1回】7/11(木)遊ゆう大学7月授業(池田町)

【第2回】7/12(金)サロンつどい研修会(帯広市)

【第3回】8/3(土)

帯広調停協会さびたの会研修会(帯広市)

【第4回】9/12(木)

社会福祉協議会老人大学研修会(帯広市)

## おしゃべり広場のご案内

毎月(8月・12月除く)第3火曜日午前10時~12時

場所 札幌エルプラザ(札幌市北区北8西3)

○7/16(火)4階大研修室A

○9/17(火)4階大研修室A

10/15(火)・11/19(火)となります。

是非ご参加ください。

## 事務局よりお知らせ

8/13(火)~16(金)は、お休みとさせて頂きます。

# 東北 支部

支部長  
橋村 裏

住所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-12-39 旭開発第2ビル703  
TEL 022-217-0081 メール tohoku@songenshi-kyokai.com  
FAX 022-217-0082 ホームページ <http://www.songenshi-kyokai.com/sub-tohoku/tohoku-top.html/>

一般公開 参加費無料

## 第17回 東北支部青森大会

とき 2013年(平成25年)9月7日(土) 午後1時~4時

ところ リンクステーションホール青森(青森市文化会館)4階 中会議室

青森市堤町1-4-1 電話017-773-7300

JR青森駅正面口(東口)から「東部営業所行き」または「県立中央病院前」  
行き(「古川経由」または「新町経由」)、「文化会館前」下車(約10分、180円)

挨拶

青森大会長 吉田 豊

報告

副支部長 阿見 孝雄

招待講演

「元気に生きよう」

青森県立中央病院医療管理監 小野 正人

特別講演

「青森県における緩和ケアの現状」

医療法人 ときわ会病院緩和ケア科長 馬場 祥子

講演

「コロリ死願望と尊厳死 願いつつも かなわぬ現状とは…」

日本尊厳死協会東北支部 支部長 橋村 裏

主催 一般社団法人 日本尊厳死協会東北支部

後援 青森県医師会、青森市医師会、青森県看護協会、青森県理学療法士会、

青森緩和医療研究会、東奥日報社、陸奥新報社、青森県コロニー協会

青森大会実行委員会事務局 青森市小柳2-1-9 電話017-741-4772(川口宏二)

### 寝たきりにならないために 生活習慣の是正が良策

講演会にどうぞ 小野 正人

私は9年前まで、直腸がんを専門的に診療する外科医でした。10年余り前、母親が寝たきりになったのをきっかけに、この方面(寝たきり予防医療)に方向転換しました。4年前より青森PPK教(ピンピンコロリ教)を立ち上げ、その教祖をしております。

本日、お集まりの皆さんも、おそらくご自身の終末期にはピンピンコロリと川の向こうへ、走り幅跳びくらいの調子で渡りたいと希望していらっしゃるかと思います。しかし、そのためには少し、知っておくべきことがあります。

現在の日本では、死因として、がんが約3分の1を占

めていますが、「寝たきり」の原因として何が一番か、ご存知でしょうか。1位が断トツ、脳卒中の約40%強、2位、3位が転倒骨折、認知症で、それぞれ10%前後です。がんが原因の寝たきりは、わずか数%なんです。

寝たきりとなる原因上位の脳卒中、認知症、骨折転倒などは、誤解を恐れずに言ってしまえば、生活習慣病の“なれの果て”であることを銘記しなくてはいけません。すなわち、飽食、運動不足、喫煙、過量飲酒などが寝たきりの大きな要素として存在しているのです。

もし、自らがPPKを望むのであれば、かなり前からその準備=生活習慣のは正をするのが良策であることは論を待ちません。

本講演では、その生活習慣の具体的は正のコツなどを含めたもう一つの話を医学的見地から、皆さんに川の向こうに渡る準備の一助になるようお話しいと思ってます。

### 東北支部の事務対応

月~金曜日の午前9時30分~午後4時(祝祭日を除く) 電話022-217-0081

## 「今村元陸軍大将」講演会

### 92歳の長男・和男氏も参加

協会東北支部主催の春の公開講演会が5月19日、仙台市青葉区仙台青年文化センター「交流ホール」で開かれ、協会東北支部理事で前秋田大学医学部長・学長の三浦亮先生が「今村均元陸軍大将の人間性と死生観」について講演、190人の会員、一般市民らが熱心に聴き入りました=写真=。

終戦から67年がたっている今、仙台出身の今村均元陸軍大将の生き方への関心が高まっていて、書店



には今村元大将を題材にした多彩な評伝や関連本が人気を集めています。この日は、今村元陸軍大将の長男で92歳の和男さん(社団法人・日本人間学会代表理事)も会場に見えたほか、今村元閣下を慕う人たちが全国から駆け付けてくれました。

三浦先生は、戦後、戦没者とその家族へ支援を行い、82歳まで静かに生きた「人間今村」の生き方を近親者の立場から話して、会場からの質問にも答えてくれました。

### 支部運営会議で会員増へ向け協議

この講演に先立って、第32回協会東北支部運営会議が同センター会議室に支部理事22人(うち委任状出席6人)が出席して開かれ、前年度の収支決算報告、事業計画などについて話し合いました。新年度は前年度に引き続き、一層の会員増へ向けてミニ集会や講演会を各地で展開することを申し合わせました。また、9月7日に青森市で開く東北支部青森大会、来年度の秋田大会についても内容などを確認しました。

### 第9回「仙台駅横・リビング・ウイル 交流サロン」

日 時

7月19日(金)午後2時~3時30分

場 所

「せんだいアエル」6階

テ マ

「終末期の安心」

特別会議室(JR仙台駅西口、徒歩2分)

第10回交流サロンは、10月25日(金)、場所、時間とも第9回と同じです。

### 生の先の死を自然に迎えられる 最期まで尊厳死を考えたい

会員 佐藤 幸子

生あるものには、必ず終わりの時が来ます。それが、いつ、どのような形で訪れるのかは神のみの知るところでしょう。ただ、そのことを平穏な心で受け止め、自然な態度で、最期に臨むということは、これまた難しいことかもしれません。

よい最期、よい死というものがあるとすれば、それは、そこまでのよい“生”的にこそ存在するものではないでしょうか。

普段は、あまり考えたくない死を、自然なものとして受け容れるには、反対側の生を、日々、充実して過ごすことと考えます。

ただ、今日、医学が発達し、医療があまねく行きわたり、本人も、また周囲の人々も一日でも長い延命に気をとられ、薬物などに無理にすがって、自然の死から離れて、その人らしい尊厳の上に立った最期を見失ってしまうのは、むしろ悲しいことではないでしょうか。

どこまでも、生の先の死を恐れず、尊いものとして迎えられる生き方を、日々学んでいきたいと考えます。

(仙台市青葉区在住)

### 会員の広場です

高齢の同居の母が脳卒中で亡くなりました。倒れた時、救急車で運ばれましたが、母も娘の私も当協会の会員であることを伝えました。救急病院のお医者さんは、私たちが協会の会員であること、いたずらな延命治療は望まないことを知り、『ご希望はよく承知いたしました。ただ、1週間ほど私たちに

様子を診させてもらえませんか』と優しく話してくださいました。そして、点滴での経過観察をなさり、親身なお世話をいただき、母は寿命を終えました。娘として、適切な終末期医療をなされたうえで、母の希望も生かされたと、悔いのない最期の看取りに立ち会えたという実感があります。会員であったことを、ありがとうございます。

(仙台市青葉区 Kさんの息女)

# 関東甲信越 支部

支部長  
鈴木 裕也

住所 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-14 山崎ビル302

TEL 03-5689-2100 メール songenkt@rouge.plala.or.jp

FAX 03-5689-2141 ホームページ <http://home.e02.itscom.net/songenkt/>

## 尊厳死を考える in 小金井

とき 2013年8月8日(木) 14:00~16:00 (開場13:30)

ところ 小金井市民交流センター (1F・小ホール)

所在地 東京都小金井市本町6-14-45

交通機関 JR中央線・武蔵小金井駅前 (南口徒歩約1分)

支部長あいさつ

すずき ゆたか  
鈴木 裕也

内 容

講演 「安らかな看取りの追求—世界の現状と法制化—」

いわお そういちろう  
岩尾 総一郎

日本尊厳死協会理事長  
医師、慶應義塾大学医学部客員教授  
死の権利協会世界連合理事  
元厚生労働省医政局長

質疑応答

岩尾 総一郎  
鈴木 裕也



岩尾理事長

定員 140人(先着順)

入場 無料

予約 不要、どなたでも入場できます。お知り合いの方をお説きあわせの上お出かけ下さい。  
チラシが必要な方はお送りします。ご連絡下さい。

## 「サロンです」参加者からのお礼状

「サロンです」では、会員、非会員の有志の方々が月1回支部事務所に集まって、尊厳死や終末期医療について自由に話し合っています。最近ではリピーターもいらっしゃいます。濱田順子様もリピーターのお一人です。いつも遠方よりのご参加、ありがとうございます。先日、お礼状を頂きましたのでその要旨を紹介します。

先日は有意義な会に参加させて頂きまして、ありがとうございました。私は7年間主人の看病を経験し、その間に現代の医療について色々と疑問を持ちました。ドクターである支部長ともう一人お医者様が出席されておられましたので、とても参考になり有意義な会であったと感謝しております。特に、一つの病院に長期入院(3

カ月以上)が難しい理由、胃ろうが日本で大変普及している理由、よく分かりました。又、救急車の問題は、マスコミ等で取り上げていますのである程度は理解していましたが、色々な実情をお聞き出来てとても参考になりました。

現代社会において医療分野の発展はめざましいものがありますが、それに反して「人間の尊厳」についてあまり考えなくなってきたような気がしてなりません。坪井主義が強くなつたせいでしょうか?

機会があれば人間の尊厳について、宗教界、法曹界、教育界に身をおいている会員の方に、お話を伺ってみたいと思います。とりとめのない事を書き連ねました。何卒御身をご自愛下さいまして、ご活躍をお祈り致します。

濱田 順子(横浜市在住)

3月12日、東京都町田市において、高野山真言宗・華厳院のご住職、矢田融海様に、「尊厳死協会入会の経緯と日本の現状」と題して講演を頂きました。以下は抄録です。

「村の渡しの船頭さんは、今年60のお爺さん」という童謡があります。昔は60歳でお爺さんだったんですね。

現代社会は「胃ろう」等の医術の進歩により、誰もが80歳以上の長寿を得ることが出来るようになりましたが、同時に「認知症」も入手してしまいました。

私の義母も認知症になりましたが、最後は植物状態となり、毎月の高額な支払いが3年間続きました。

私の寺は農村地域です。皆どこかで親類になっています。延命治療を続けなければ近所から何を言われるか分かりません。でも、現金の無い人は農地を切り売りして植物状態の家族を介護します。農民にとって農地

は大切。売ってしまったら生活が出来ません。このことを、本人(患者)はどう思っているのか、誰にも分かりません。

高齢になり入院すると3年で追い出されます。その後、公の老人ホームに入ろうとすると待機人が300人。私営だと最低、月20万円かかります。



矢田融海住職

これが日本の現状なのです。日本は尊厳死が認められていないからです。お釈迦様は「生老病死」を説かれました。生まれたものは全て老いて病んで死ぬ定めにある。人間だけが、なぜ長寿を手に入れてしまったのか。天地自然の摂理に反しているのです。

私は「尊厳死」に大賛成です。尊厳死をもっと国民全員に周知徹底して、一日も早く賛同者を増やしていくたいと考えます。 合掌

## 「地域サロン」をあなたの地元で!

地域の会員の皆さんにお集まりいただき、終末期医療のことや尊厳死のことなどを気楽に話し合う「地域サロン」を好評展開中です。

地元の公民館や市民センターなどの会場をお借り下さい。

会場が決定したら、事前に支部から地域の会員さんへ案内はがきを発送し、当日は運営進行なども支部が行います。

詳細は事務局(下記)へ、ご気軽にご相談下さい。

03-5689-2100 songenk@rouge.plala.or.jp



地域サロン風景(横浜市にて)

### 講師を派遣します

#### —尊厳死についての出前講座—

会場は依頼元側でご用意ください。

ご希望の方は支部にご連絡ください。

03-5689-2100

・過去3年間の実績と今後の予定を支部のHPで公開しています。内容は、実施した年月日、依頼元名、派遣した講師名、対象者など。

・依頼元は、生涯学習団体、町内会、老人会、地域ケアプラザ、福祉施設、学校、個人など多岐に亘っています。

### サロンです(DEATH)

#### 会員同士の交流の場にどうぞ!

お茶を飲みながら尊厳死のこと、終末期医療のことや世間話など、支部役員と気楽に話しましょう。どなたでも(非会員でも)参加できます。

事前に事務局(03-5689-2100)に予約のうえでお越しください。今後の予定は次の通りです。

7月12日(金) 13:30~15:00

9月13日(金) 13:30~15:00

10月11日(金) 13:30~15:00

11月 8日(金) 13:30~15:00

## 東海 支部

支部長  
青木 仁子

住所 〒453-0832 名古屋市中村区乾出町2-7 正和ビル2階 なかむら公園前法律事務所内  
TEL 052-481-6501 メール tokai@songenshi-kyokai.com  
FAX 052-486-7389 ホームページ <http://dignitytokai.sakura.ne.jp>

### 10月5日(土)午後1時から 25年度支部大会 愛知県医師会館大講堂で

テーマ「在宅医療を考える」

講演とシンポジウム

約8割の人が「自宅で最期を迎える」と希望しながら、実態は約8割が病院で終末を終えているとのデータがある我が国の高齢社会。そんな中で、無意味な延命措置を辞する「尊厳死」が、このところ国会の首相答弁やテレビ報道などでクローズアップされ、これに大きく関わる「在宅医療」が高い関心を呼んでいます。

「自宅で亡くなりたいという親の気持ちは尊重したいが…」といった声に、医療側から「医療者がチームを組ん

で支える介護システムは各地で進んでいる」などといった説明がなされ、国も在宅療養支援診療所制度を昨年、機能を強化し、病院ともタイアップした「地域包括ケア」といった概念を提唱しています。

10月5日の支部大会では、講演とシンポジウム形式で「在宅医療の方向性」を探りたいと思っています。詳細は10月1日発行の会報151号でお知らせします。会員でない方もお誘い合わせてご来場下さい。

### 好評「新・私が決める尊厳死」 医療者研修のテキストにも 新聞でも紹介、全国紙に広告

今年3月、東海支部が中心的役割を担って編集、出版した『新・私が決める尊厳死—「不治かつ末期」の具体的提案』(日本尊厳死協会編著・発行)は「難しい



テーマだが、よく読めば一般にも分かりやすいように書いてある」「医療関係者のテキストにもなる」などと好評です。

名古屋市内のホテルで5月18日に開かれた第48回東海腎不全研究会(東海腎不全研究会主催)=写真=では、筆者の1人・渡邊有三講師(愛知県春日井市民病院長)が「高齢者透析時代を迎えて一透析非導入/中止という選択は許されるか」をテーマに講演。参加者に配布した新版本の著述「腎不全」をテキスト風に使い、高齢社会での透析のあり方に問題を提起しました。

研究会には透析医療に携わる医師、看護師ら300人近くが詰めかけ、主催者が用意した新版本200冊はあっという間に無くなりました。続いて「終末期透析患者の診療に苦慮する医療現場」(東海中央病院腎

臓内科・石川英昭医長)があり、講師に招かれた青山邦夫東海支部理事(弁護士、元名古屋高裁判事)が「終末期医療の見合せをめぐる法律問題」をテーマに研究会を締めくくりました。

中日新聞では、4月23日の生活面「つなごう医療」で「認知症に末期の定義 延命措置論議の材料に尊厳死協会が提案」として取り上げ、5月16日には市民版「みんなの本」=写真=でも「最期を考える」の見出しで紹介しています。協会は、朝日新聞1面に全国通しの書籍広告を出しており、出版元の中日新聞出版部には、北海道から沖縄までの書店から注文がきています。

### amazonで売り上げ第1位(倫理学分野)

出版部によると、ネット通販amazonには5月31日までに310部の注文があり、倫理学ジャンルではあるが、出版直後に売り上げ第1位も記録しています。

4月28日夕方、名古屋市内で開いた出版記念会「筆者講演と懇親の夕べ」には122人が来場、うち86人は一般の方でした。(出版記念会の模様と増刷については4ページに関連記事があります)



## お出かけ下さい 入場無料

一般の方もお誘い合わせてお越し下さい

### リビング・ウイル懇話会in長久手

とき 9月8日(日)午後2時~4時30分

ところ 愛知県長久手市文化の家 光のホール  
(長久手市野田農 0561-61-3411)

お話し 尊厳死について

青木仁子(東海支部長、弁護士)

お話し 地域の在宅医療

服部努(長久手市・たんぽぽクリニック院長)

日本医師会生涯教育認定講座(申請中)

意見交換 講演終了後

共催 東名古屋医師会(申請中)

後援 愛知県医師会(申請中)、中日新聞社

交通 リニモはなみずき通駅から徒歩約7分、  
地下鉄藤が丘駅から名鉄バス(5番乗り場)、  
長久手郵便局下車徒歩約5分

問い合わせ 東海支部事務局(052-481-6501)

### 「市民にも知つてもらおう」で公開講座

#### 御前崎市立総合病院 青木支部長講演

静岡県御前崎市の市立御前崎総合病院が3月16日(土)、市民会館で開いた講演会「尊厳死を考える」に青木仁子支部長が講師として招かれ「自分らしく生きるために自分らしく死を迎えるため」をテーマに話しました。

講演会=写真=は院内倫理委員会の主催で、初めは院内の研修として企画されました。



たが、「尊厳死は今や社会問題。市民にも聴いてもらおう」で公開講座となりました。挨拶で大橋弘幸病院長は「多くの病院は今や『病気を治す』急性期な施設から『死を看取る』慢性期的な状態になってきている。終末期医療は、患者の意思を忖度(そんたく=推し量る)する時代から本人の意思に従う時代に変わってきている」と述べました。

来場したのは、病院関係者94人、一般市民78人でした。「様態の急変で救急車を呼んだ時など、本人の意思確認は難しい」といった質問には、青木支部長は

「元気な時に自分の意思を文書や宣言書に書いておくことがベストだが、日頃から家族とよく話し合っておくことも重要」と答えていました。

### 開きました出前講座

4月16日(火)午後2時から

会場 名古屋市熱田区社会福祉協議会

主催 倾聴ボランティア「さくら貝」

演題 尊厳死について

お話し 古賀順子協会・支部理事 会場 70人

4月17日(水)午前10時から

会場 名古屋市民活動センター

主催 鮎城学園高年大学国際科26期生

演題 尊厳死について

お話し 古賀順子協会・支部理事 会場 25人

4月20日(土)午後2時から

会場 北名古屋市健康ドーム

主催 大和塾

演題 尊厳死について

お話し 古賀順子協会・支部理事

演題 体験談 お話し 福井圭子支部理事 会場 100人

5月17日(金)午後1時30分から

会場 岐阜市・なかよし村カルチャーラム

主催 アビィフィールド日本協会岐阜支部

演題 尊厳死とリビングウイルの必要性

お話し 鈴木敏史支部理事 会場 23人

5月19日(日)午後2時から

会場 浜松ゆうゆうの里

主催 日本老人福祉財団浜松ゆうゆうの里

演題 尊厳死をご一緒に考えて下さい

お話し 田畠好基支部理事 会場 63人

5月22日(水)午後7時から

会場 志摩市・デイサービスセンターはまみの里

主催 地域の介護職員、医師

演題 人生最期の選択を考える

お話し 田畠好基支部理事 会場 28人

退任 井戸豊彦東海支部理事(88歳、岐阜市在住)は今年3月末で退任しました。岐阜赤十字病院長在任中(32年間)の平成3年(1991年)、支部理事となり、その後、支部長、協会常任理事を歴任。岐阜地区懇話会では、講師の選任を一手に引き受けるなどの尽力ぶりでした。

# 北陸 支部

支部長  
金川 琢雄

住所 〒920-0902 金沢市尾張町1-7-1 山崎法律事務所内

TEL 076-232-0900

メール

hokuriku@songenshi-kyokai.com

FAX 076-232-0932

## 日本尊厳死協会北陸支部大会の報告

平成25年5月25日、金沢市文化ホールにて、平成25年度北陸支部の支部総会並びに記念講演が開催され大会には70人近くの方々が参加され、有意義な大会となりました。はじめに、金川北陸支部長より開会の挨拶があり、日本尊厳死協会の活動状況と北陸支部の会員増強の協力依頼がありました。つづいて山崎支部理事より平成24年度北陸支部の活動報告と収支報告並びに北陸支部役員の選任に関する話がありました。今回の記念公開講演には、富山県小矢部市にある介護老人保健施設ゆうゆうハウスの小林勉施設長にお越しいただき、認知症について大変興味深いお話を聞きすることができました。

### 平成25年度北陸支部大会記念公開講演抄録

#### 演題「認知症のお年寄りをお世話して感じたこと」

講師 小林 勉さん

認知症では「もの忘れ」が強まり、5分前のことを見忘れてしまいます。また、周りの状況が理解できず、「見当はずれの言動」が生じます。85歳では約半数の人に認知症の症状が見られると言われており、年齢とともに発症率が高まります。「もの忘れ」や「見当はずれ」は、赤ん坊や幼児にも見られる現象です。従って、私は認知症を「頭の若返り」と捉えています。また、半数近くの人に症状が現れるということは、年齢による当たり前の出来事と考えられ、私自身は認知症になることを特に恐れていません。しかし、認知症の本人よりも家族が大変であり、家族が崩壊しかねない事態も生じています。特に苦労されているのは、認知症の「おじゅうさん」を世話されている主婦の方々です。家庭の問題を解決するには、社会全体が協力する必要性を感じています。認知症のお年

寄りにもプライドがあり、子供扱いはしてはいけません。認知症の症状には、①主症状、物忘れ・見当はずれ②場合により現れる症状、不眠・物盗られ妄想・せん妄・抑うつななどがあり、認知症の予防には①社会性を保つ(独り暮らしは危険)②脳梗塞・出血を防ぐ(生活習慣を正す)③骨折しない(適度の運動で体力を保持)④新聞を読む(めがねを作る)⑤創造的なことを行う(俳句や絵画など)が良いと言われています。認知症になんでも安心して暮らせる社会を作りたいものです。

(記 松田邦男)

### 北陸支部の新役員・支部理事のお知らせ

平成25年度から支部役員をお願いすることになった方々です。宜しくお願い致します。

**支部長** 金川琢雄(兼本部常任理事)

**副支部長** 谷口幸江(兼代議員)

**支部理事** 山崎利男(専務)・喜多正樹・  
敷田千枝子・小坂直信・  
藤井忠邦(新)(以上石川)、  
中田内藏司(兼代議員)・  
伊藤冴子(以上富山)、  
稻田章夫・玉村純子・  
北川誠(新)(以上福井)

**顧問** 山本恵一

### 「死 生 雜 感」

支部理事 小坂 直信

子供の頃から身体の弱かった私は、学校を休み、歩いて5分ぐらいの所にある金沢大学医学部附属病院の小児科によくかかっていました。一番長く休んだ記憶は、肋膜炎に罹った小学5年の夏

から秋にかけての3ヶ月弱で、夏休みがあったので無事進級できましたが、あと1日か2日休むと本当に留年になるというギリギリだったのです。

そんなある日、小児科の診察室で助教授の廣島先生と母が話をしていました。『先生、この子いつまで生きられるのかね』心配そうな母の声でした。母は、戦後すぐに、妹“安”を1才足らずで亡くしているのでとても神経質になっていたのです。カーテン一枚で仕切られていた私に気が付かなかったのか、母は声をひそめてもいませんでした。「そうだなあ、まあ38才ぐらいまでは大丈夫だろう」廣島先生ものんびりした声で答えていました。今から考えるとかなり無責任な返事を先生もしたものだと思います。「ああ、そうですか」母のホッとした声が聞こえてきました。その声を聞いて私もとてもホッとしたのです。母にとっても私にとっても38才は遠い遠い将来のことだったので。病気が直って元気になっていくにつれ、そのことは潜在意識の中に消えていきました。高校2年、思春期のさなか、受験勉強で深夜まで机にしがみついていたある夜、突然その潜在意識が頭の中に浮かび上がって来たのです。「ああ、俺の命は38までか」その時の38才はかなり近い将来だったので。「あと20年ほどしかないのか。それならしたいことして死ななきゃ損。でも、とにかく今は受験。早く大学に入って東京に行かなきゃしたいことできんぞ」そして、益々受験勉強にのめり込んでいったのです。

「いつ死んでも良い。その時後悔しないように、今を精一杯生きよ」これは素晴らしいテーマです。

しかし、20才代の若者にとって、これはとても重くのしかかってきたのです。今を一所懸命に生きると言うプラス面よりも、どうせもうじき死ぬんだ、という悲観的な考え方方に陥ってしまったのです。酒に“女”に、書きたいのですが女は本当にあまり縁がませんでした。本です。金沢に帰ってきてからも、仕事も本当に一所懸命にしましたが(この文章には“本当に”がかなり多いですね。でも嘘ではないんです。本当なんです。信じてください、

本当に。)1週間に10日も片町(金沢の繁華街)に飲みに出歩きました。『家を出づるが何とてかうれしき 夜になれば何とてか出づる どうせ夜更けにうなだれては帰るものを』(光太郎)。

38才の前年、家業を継いでいた兄が亡くなり、その責任が全面的に私にかかっててしまい、もう無我夢中で仕事に取り組まなければなりませんでした。生きるとか死ぬとかの“たわごと”なぞ考えている暇はありませんでした。あつという間に4・5年が経っていました。私についていた死神は、どうやら兄が連れていってくれたようです。

精神的にも経済的にもなんとか落ち着いた頃、縁があり尊厳死協会に入会したのです。

68才の時、肝細胞癌が見つかり、検査の結果幸運にも手術が可能とわかり、切除手術を受けました。手術後3日目に、お腹の中の出血が止まらないというのでもう一度開腹して止血をすると言わされました。かなりショックを受けましたがどうすることもできません。その2度目の手術の方がとても大変で、人工呼吸器を口の中に突っ込まれ、あとで聞いたのですが術後3日間麻酔で眠らされていたのだそうです。

目が覚めた時、「ああ、まだ生きている」とある感動と共に感じました。その時頭の中に浮かんだのは「生きたい、生きたい、もっともっと生きたい!」でした。「いつ死んでも良い」はきれいさっぱりと消え去り、「生きれる限り生きる」がドローンと頭の中に出で來たのです。『如来します 案ずることなけれ』(満之)「生死」のことは、私の如意なることではない、そんな事はなすにまかせておけばよいのだ。

『悟りという事は如何なる場合にも、平氣で死ぬ事かと思っていたのは間違いで、悟りというのは如何なる場合も平氣で生きている事であった。』(正岡子規『病床六尺』)亡くなる約3ヶ月前の明治35年6月2日の記述である。

『君達は死後明るいのかね。僕は死んだ後は明るいのだよ。ハッハッハッハ、ハー』(信国 敦)

そんな人に私はなりたい。 合 掌

## 関西 支部

支部長  
長尾 和宏

住所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-46 新大阪北ビル702号

TEL 06-4866-6365 メール kansai@songenshi-kyokai.com

FAX 06-4866-6375 ホームページ <http://www.songen-ks.jp>

■ ■ ■ 国の重要文化財「大阪市中央公会堂」で ■ ■ ■

### 2013年 関西支部大会(参加無料)

日 時 2013年10月9日(水) 13時30分~16時30分(13時開場)

場 所 大阪市中央公会堂中集会室(3階) 電話06-6208-2002

ア クセス 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅下車1番出口から徒歩約5分

定 員 500人(先着順)

総 会 支部長あいさつ 事業報告 13時30分~

特別講演会 14時~15時30分



#### 内 容

#### 「大往生したけりや 医療とかかわるな～自然死のすすめ～」

講師 社会福祉法人老人ホーム「同和園」附属診療所長 中村 仁一

1940年生まれ、市民グループ「自分の死を考える集い」主宰 主な著書「大往生したけりや医療とかかわるな」ベストセラー

懇談会 15時40分~16時30分(支部理事との意見交換会)

—— 参加費無料です。会員外の方もお誘い合わせのうえ、お気軽に越しください。 ——

ボランティア募集 10月9日(水)に受付などお手伝い出来る方。関西支部までご連絡下さい。

#### 5月12日 第2回大阪講演会 講演要旨

### 「在宅看取りの実際」

長尾 和宏(医師・副理事長・関西支部長)



看取りの場所が多様化している。かつては、病院か自宅だったのが、最近は、介護施設やサービス付き高齢者向け住宅が終の住処となってきている。私の経験では、それ以外の場所での看取りも増えている。たとえば兄弟宅、友人宅、仕事場、ウイークリーマンション、自分のお店などの看取りをお願いされることがある。研修医には「そんな場所で看取って、犯罪になりませんか?」とよく質問されるが、そんなことは絶対にない。日本は法治国家なので、法律に基づいて看取りを行えば問題ない。すなわち昭和24

年に施行された「医師法20条」には、医師が病気の経過を診ていれば、たとえ息を引き取った後でもそこに行けば死亡診断書を書ける、という旨のことが書かれている。

さらになんと、最後に診てから24時間以内に死亡した患者さんについては、そこに行かずとも書いていい、とまでうたわれているのだ。間違ってはいけないのが、死亡診断書に書く死亡時刻=医師の到着、ではない。死亡時刻=呼吸停止したと思われる時間でなんら差し支えない。人間の死は、何時何分何秒というものではなく、大体何時頃としか言えない。呼吸停止、心停止をもって生物学的な死と定義する。法律が様々な場所での看取りを保障してくれている。63年前の昭和24年に施行された医師法20条のおかげで、患者さんの希望する場所での旅立ちを、

同封ハガキ は新会員紹介用です。ご紹介頂いた方に入会資料等をお送りします。

おおらかな気持ちで見守ることができるのだ。死ぬ瞬間に、医者は居なくても大丈夫。いや、いないほうがいいことが多い。そうした話を家族に事前にしておくとイヤという時に慌てない。以上は、在宅で看取りをしてくれる「かかりつけ医」がいることが大前提となる。また、実際には、それをサポートしてくれる訪問看護師が看取りを優しく指南してくれる。実際、看取りの周辺で一番頼りになるのは訪問看護師さんとケアマネさんである。家族だけではなく、多職種が連携してこそ、在宅での看取りが可能となる。

関西支部からの

## 「エンドレスメッセージ」

### 「支部理事を拝命して」

支部理事 浦嶋 偉晃



尊厳死協会に入会して1年少し、支部理事を拝命して半年余ですが、人生において、この役割を頂いた長尾支部長に感謝しています。

私が自分の「死にざま」を深く考えたのは今から24年前、叔母が38歳の若さで、癌で激しい闘病の末、亡くなつた時から。

今の様な緩和ケアもなく、抗がん剤治療の繰り返しによる苦しみだけの闘病生活で、何よりも双方にとって最大の苦しみは告知をしなかつた事。

私は抗がん剤治療で苦しんでいる叔母に、見舞いの度に「頑張りや」という酷い言葉をかけるだけしかできなく、その度に力なく笑う叔母の顔が忘れられません。叔母の本音はどうだったのか。そして苦しんだ末に亡くなりました。

私は本当は叔母に言いたかった「今まで有難う」、「苦しいのによく頑張ったな」という言葉をかけられず、そして何よりも叔母が家族や私たちに対して言葉を残す事ができなかつた。

「死」とはこんなに苦しいものなのか。それ以来、私は長い間ずっと「死にざま」について考えてきましたが、明確な答えは出ませんでした。そんな中、長尾支部長から「尊厳死」について教えて頂き、私の心の中にスッと入っていくのを感じました。それが何故なのか、まだ明確でないですが、今、私が強く思っているのは、最期まで自分らしく生きて、自分の「死にざま」を息子たちに伝えていく事。52歳の若輩者ですが、支部理事として若い世代に「尊厳死」を伝えていきたいと思っています。

## サロンの輪

### 『期待と広がり』

支部理事 畠中 治朗

サロンには会員だけでなく、多くの方がお見えになります。

今日中に入会したいと飛び込んでこられた方。お聴きすれば、「父の入院が急に決まった。意思のはつきりしている間に入会させたい」とのこと。入会申込書を受け取り入院先に急行。自署したLW宣言書を持ち、終業ぎりぎりに戻られ、入会手続きを無事完了された。

一方、会員のご長男、奈良市在住の追野浩一郎氏は3月12日に来所。97歳の父君が脳血管障害、右半身麻痺で富山県立山町内の病院に入院中、胃ろう造設を勧められたが辞退。関西に転院させたいとの強いご希望があり、神戸の長女、横浜の次女も同意見とのこと。LW受容協力医師の勤務する病院を紹介する「関西LW35号」を見せたところ、3月30日医師に面会がかなない、4月4日希望した関西の介護療養病棟に転院。17日に穏やかに永眠された。

急な展開に驚きつつサロンへの期待と輪の広がりを感じている昨今です。

## 支部ニュース

### ① 大阪・豊中講演会

① 日時 2013年8月3日(土) 14時~16時

② 場所 すべてホール(エトレ豊中5階)

阪急宝塚線豊中駅すぐ(阪急梅田より急行で11分)

③ 演題 「認知症と平穏死」

~この長寿社会健やかに、安らかに~

④ 講師 長尾 和宏(当協会副理事長、関西支部長、医師)

⑤ 入場 無料 会員外の方も歓迎 事前申込み制  
関西支部にお申込み下さい。

⑥ 後援 とよなか男女共同参画推進センターすべて  
公益財団法人とよなか国際交流協会

### ② 支部役員人事(2013年4月2日)

① 新任 事務局長 小澤 和夫(支部理事)

② 退任 三浦 正三(支部理事・事務局長)  
吉田 多美(支部理事2013年3月31日)

## 中国地方 支部

支部長  
古田 隆規

住所 〒730-0024 広島市中区西平塚町2-10

TEL 082-244-2039

メール chugoku@songenshi-kyokai.com

FAX 082-244-2048

ホームページ <http://www.living-will.jp/>

# 「尊厳死と在宅医療、施設医療」

折口内科医院 院長 高橋 浩一

今回あらたに受容協力医師になられた高橋浩一先生のご紹介を兼ねて、在宅医療と施設医療について寄稿いただきました

### 【自己紹介】

広島市中区で、在宅緩和ケア対応の診療所で活動しております。もともとは呼吸器内科医で、肺がん・肺炎、肺気腫(COPD)など多くの方を病院で看取ってきました。JA広島総合病院の緩和ケアチームリーダーとしても活動し、広島県から聖路加国際病院に派遣される緩和ケア研修なども受けています。がん末期で入院中で「家に帰りたい」と言われる患者はかなり多く、「しかし在宅診療に対応してくださる開業医が見つからない」という理由で自宅に帰れない人もたくさん見てきました。それならば自分でそういう患者や家族の希望に応じる診療所として活動しよう、と決意して開業しました。開業当初から24時間対応、非がん患者も含めて在宅緩和ケアや在宅看取りに対応しております。

### 【施設での医療】

ある縁で、老人施設(特別養護老人ホーム)の嘱託医(非常勤)を引き受けこととなりました。「がん」というのは「老化現象の一種」ですので、入所中の高齢者にもがん患者が一定の比率で存在し、がん緩和ケアを必要とします。なかには「もう病院に行くのは結構です、ここで(施設で)最期までお願いします」と言われる患者や家族もおられます。老人施設の入所者は何らかの理由で自宅生活が困難となった方がほとんどで、施設を終の棲家(ついのすみか)と認識されている方も多いです。つまり在宅医療と同じように、施設に

も在宅緩和ケアや在宅看取りの考え方をそのまま必要とし適用できる入所者や患者もいることが認識できました。

### 【在宅緩和ケア、施設緩和ケアの重要性】

みなさん、どこで最期を迎えるかと思っておられるでしょうか。いろいろ希望はあるにしても、「痛い、苦しい」が続く状況であれば、実際には入院治療するしかないでしょう。自宅で最期まで、あるいは施設で最期まで、という願いをかなえるためには、痛みや苦しみを軽減することが必須の前提条件になってきます。緩和ケアをしっかりと受けること、それが重要なことです。

### 【在宅医療連携拠点事業】

在宅医療を開拓していくために、どこにどんな問題点があり、どんなノウハウがあるのか。それを知るためにモデル事業が在宅医療連携拠点事業です。平成23年度に全国で10か所、24年度は105か所です。手を挙げた所から選ばれており、診療所、病院、医師会、訪問看護ステーション、県市町など、多様な事業体が選ばれました。「いろいろな所にやらせてみよう」との考えだと認識しています。広島県では当院、東広島地区医師会、馬場病院(竹原市)、因島医師会病院の4か所が選ばれています。

当院は先に述べましたように、施設にも在宅と同様に緩和ケアや看取りを必要とし、希望されている患者がいることを認識し、在宅医療にも施設医療にも対応できる「在宅・施設医療ネットワーク広島」を立ち上げて活動をおこなっています。いくつかの事業を実施中ですが、重要なのは医療介護福祉関係者の連携「顔の見える関係づくり」と、効率的な患者情報共有です。具体的には、どの職種がどんな実務をしているか、という認識を共有するところから始めたいと考え「多職



種連携勉強会」をおこなっています。患者情報共有については、パソコン、スマホ、iPadなどを活用した情報共有ネットワークシステムを試験的に稼働開始しています。患者さんの自宅に「連携ノート」を置いておく時代は、もうすぐ過去のものになります。

老人ホームなどの施設での看取りについては、施設職員に対する看取り教育も重要だと認識しており、実施してきています。在宅でも施設でも緩和ケアを受けることのできる時代となってきています。

### 【中国地方支部 公開講演会】

「在宅・施設医療ネットワーク広島」で活動しておられ、今回寄稿いただいた高橋浩一先生の講演会を開催いたします。

入場無料、どなたでも参加いただけます。

日 時 7月28日(日)

午後2時(午後1時30分開場)～午後4時

場 所 広島市まちづくり市民交流プラザ5階 研修室C  
広島市中区袋町6-36(定員60人)

演 題 「在宅緩和医療について」

問合せ 日本尊厳死協会中国地方支部 082-244-2039

## 「ミニ集会報告」

一般社団法人日本尊厳死協会

中国地方支部 支部長 古田 隆規

本年3月9日松江市、4月6日広島市において、ミニ集会(両集会とも参加者21人)を開き、何れも尊厳死の問題についてお話をさせていただいた。皆さんの関心は、65歳近辺で、自分の周辺にも変化が起きて自分で死を意識したとき、どのようなモチベーションで、活力ある生を生き抜くかということであった。私は、年をとれば孤立をおそれず周囲から自立し、社会からの恩恵を受けることを主張する代わりに社会貢献すること、特に将来ある若者への支援によって社会を活性化し、生きる活力を持つ必要性をお話した。

質問では、自分でリビングウイルを書いた場合有効なのかとか、延命治療、特に終末期医療には関心があり、無意味な延命はしない方がよいとのニュアンスが認められた。エンディング・ノートの普及によるものかも

しれないが、電話相談でも、最近はリビングウイルを自分で書こうとされる方が多いように見受けられる。私は、当協会に入会されれば、本部、支部共に会員を全力で支援する仕組みをつくっていることを訴えた。特に、支部においては会員相互の交流や在宅医療の普及のための支援にも取り組んでいることをお話しした。

5月19日には山口県周南市でも尊厳死のお話を正木文治支部理事がさせてもらったが、最近ミニ集会への依頼が増えてきつつある。会場さえ確保していただければ、少人数の集まりであっても、どこにでも、足を運ばせていただきますので、どうぞ支部までご連絡下さい。(電話082-244-2039)もちろん無料で、経費などの負担もありません。

### 一般社団法人 日本尊厳死協会 中国地方支部『中国地方支部大会・公開講演会』予告

演 題 『安らかな看取りの追求:世界の現状と法制化』

入 場 無 料

会員外の方も是非ご参加ください。

講演者 一般社団法人日本尊厳死協会 理事長 岩尾 総一郎

現 慶應義塾大学医学部客員教授

厚生労働省医政局長、世界保健機構健康開発センター所長、国際医療福祉大学副学長を歴任

日 時 2013年10月10日(木)13:00～16:00

場 所 メルパルク広島 6階 平成の間(1)

**四国  
支部**

支部長  
野元 正弘

住所 〒790-0067 松山市大手町1-8-16 二宮ビル3F B

TEL 089-993-6356

メール shikoku@songenshi-kyokai.com

FAX 089-993-6357

ホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~songenshikoku-com/>

## 支部便り

### 四国支部大会のご案内

皆様に「終末期と尊厳死」についてより深く知つていただけるよう各界の代表者をお招きしシンポジウムを開催します。それぞれの視点からの豊富な知識と経験をぜひお聞きください。

日時 10月20日(日)午後1:30~4:00

場所 近森病院 管理棟3階会議室

高知市北本町1丁目1-28

テーマ 終末期と尊厳死の法制化

司会 北村 龍彦(高知県会長・医師)

講師 野元 正弘(四国支部支部長・医師)

大井田 二郎氏(高知県医師会副会長)

中谷 元氏(衆議院議員)

中橋 紅美氏(弁護士)

小林 良樹氏(元慶應義塾大学総合政策部教授)

## ◆支部サロン “喫茶去だんだん” ◆

毎月・第1金曜日に支部事務所でサロン茶話会・第3金曜日(8月は第4週)に絵手紙の会を開催し、お茶を飲みながら尊厳死のことなど話しています。事前に事務局にご連絡ください。(いずれも1:30~3:30)

開催予定	サロン茶話会	絵手紙の会
	7月5日(金)	7月19日(金)
	8月2日(金)	8月23日(金)
	9月6日(金)	9月20日(金)



## エンディングノート講座

ご要望の多かったテーマについて専門家の話を聞くエンディングノート講座がスタートします。先着20名様となりますのでご了承ください。

事務局(089-993-6356)までお電話、FAX、メールでお申込みください。

## 第1回:相続について知つておきたいこと

講師 吉村紀行(弁護士・支部理事)

日時 7月24日(水)午前10時~

場所 四国支部事務局

## ワイド四国便り

妻婦具 「えひめ尊厳死を考える会」 会長 上田暢男  
事務局 〒790-0067 松山市大手町1-8-16二宮ビル3階B  
守谷高志 Tel:089-993-6356/Fax:089-993-6357  
E-mail:shikoku@songenshi-kyokai.com

### 懇親会のご案内

日時 7月28日(日)1:30~

場所 宇和島市総合福祉センター3階

宇和島市住吉町1-6-16

日頃感じている疑問や思いを会員同士で話し合い親ぼくを深める機会となっています。上田会長(元県立中央病院院長)による健康相談もあります。どうぞお気軽にお越しください。

### 私と尊厳死

矢野 準子(西条市)

夫が若くして逝って30年が過ぎた。夫の死など考えたこともなかった。私はその日まで夫に頼って暮らし、穏やかに夫の傍らで微笑んでいればよかった妻の座はもうない。日々ばかりが過ぎた。ある時、私はもう一度、夫のために生きようと思った。夫の友人達にも、夫の妻として恥じない女性として生きたいと思った。この時はじめて、生きることの意味、いつかは必ず訪れる自分自身の死のことを考えていた。

私は躊躇なく日本尊厳死協会の会員となり、保険証と一緒に会員証を携帯している。

友人に日本尊厳死協会の話をすると、「まだ、死はない。その時が来たら考える」という。人の一生は予測できない。私は死を考え、はじめて日々の生活の大切さに気づき、輝いて生きたいと思った。そして、いつの日か延命治療は行わない自然な死で亡

夫の許へ逝きたいと願っている。

## 香川県

「かがわ尊厳死を考える会」 会長 福森誠一  
事務局 TEL761-2101香川県綾歌郡綾川町畠田964-185  
福森誠一 Tel/Fax:087-877-1717  
E-mail:rsr02715@nifty.com

### 3月24日(日)懇談会の講演要旨

#### 「健やかに生きる～高齢者の健康と医療～」

綾川町国民健康保険陶病院長 大原昌樹



医師になって27年、内科医で病院勤務だが、在宅医療25年、介護施設に関わり十数年、看取りを含めていろいろな経験をした。陶病院(63床)は、入院患者は高齢者が9割近い。寝たきりの方も多いが、最近、胃ろうをする方が減っている。胃ろうも積極的な医師とそうではない医師で違いがある。最近の減少は、本やマスコミの影響も大きく患者や家族が胃ろうはしない選択をされる方が増えている。ただ、胃ろうをすることが全て悪いわけではなく、メリットもある。医師、看護師と本人、家族が十分話し合うことである。

併設する老人保健施設での看取りも行っている。マニュアルを作り、十分な説明を家族に行ってから始めて見ると、意外と問題がない。病院では点滴、モニター、酸素、検査をするが施設ではこれらはほとんどせずケアに重点を置く。たまに顔を出した遠方の方に「こんなところで大丈夫なのか」と言われることもあるが、おおむね穏やかに看取りができる。

当院でも尊厳死を希望する方を受け入れている。今後は、すべての人々が自分の事として考えておくことが望ましく、健康教室などで地域に出向く際には話題に出している、死を考えること、医療に過度に期待しない、医療者に任せきりにしない。そして自分や家族で話合うことが前向きな生活につながると考えている。

## 徳島県

「とくしま尊厳死を考える会」 会長 糟谷三郎  
事務局 TEL770-8007徳島市新浜本町1-7-4  
郡 暢茂 Fax:088-663-2129  
E-mail:nobushige@mc.pikara.ne.jp

3月15日、糟谷会長が、徳島いのちの電話(希望)

の相談員講習会で、「尊厳死について」と題して講演を行いました。活発な質疑後に30名が尊厳死協会への協力と入会希望の意思表示をしました。参加者は、受講料を払い年間40回の指定講座を受講、審査に合格したボランティア相談員です。

徳島いのちの電話は、年間1万～1万5千件ほどの相談に80人の相談員が応じています。

### 定期講演会のご報告

6月9日(日)ふれあい健康館で麻野信子氏による「尊厳死を望む方への寄り添い～愛する家族に看取られること」を開催しました。詳細は次号でお知らせします。

## 高知県

「(社)日本尊厳死協会・高知」 会長 北村龍彦  
事務局 TEL780-8073 高知市朝倉本町1-12-24  
上田 雄一 Tel:088-844-1606  
E-mail:uetay1288@nifty.com

### 3月10日(日)懇談会の報告



47人の会員の方が参加され懇談会「口から食べにくくなったとき—摂食嚥下機能低下—」を行いました。北村会長が医師の立場から摂食嚥下機能とは食物を認識して口に運び、良くかんで飲み込むこと。加齢や病気による機能障害により、口から食べられなくなったときの各種栄養補給や認知症、胃ろうなど経管栄養の解説を行いました。秋山支部理事は歯科医師の立場から歯周病対策を兼ねた口腔ケアや、歯(入れ歯を含む)の清潔を保つ具体的な方法を歯ブラシを使って実技指導、皆さん熱心にトライしました。質疑応答は入れ歯の磨き方や就寝時の対応など具体的な質問が多く活発に行われました。他にも医師に延命治療の中止を断られ、家族としてつらい終末期を経験した話も紹介されました。また、尊厳死の宣誓書に記載されていますが、実際に家族や自分が倒れた時に、どのように尊厳死を望む意思を伝えたたら良いのか、患者や家族、医療者を含めた社会全体の理解と環境整備の必要性が痛感された懇談会で、充実した時間となりました。

(写真:秋山支部理事)

# 九州 支部

支部長  
原 信之

住所 〒810-0001 福岡市中央区天神3-10-25 森連ビル804

TEL 092-724-6008

メール songenkyushu@ybb.ne.jp

FAX 092-724-6008

ホームページ <http://www.geocities.jp/songenkyushu>

## 大田満夫支部長が勇退

### 新支部長に原信之さん、 本部理事に納光弘さんをそれぞれ選出

13年度の春の理事会は4月6日午後、福岡市の九州支部事務局で開き、理事15人が出席した。この中で大田満夫支部長が85歳の高齢などを理由に「この機会に後進に道を譲りたい」として勇退を表明し、理事会はその趣旨を是として了承した。

後任の新支部長には福岡県会長の原信之さん(公益財団法人福岡県すこやか健康事業団会長)が、また、九州支部選出の本部理事に鹿児島県会長の納光弘さん(公益財団法人慈愛会会長)がそれぞ

れ選ばれた。

6月の定時社員総会を待って九州の新しい体制がスタートする。



勇退した大田満夫さんは九州支部の草分けの時代から20数年間にわたり支部長を務めており、その間地元福岡はもとより九州各県や沖縄などをくまなく回って公開講演会に臨み、持ち前の温厚な性格と話術のうまさを駆使し精力的に活動、「話が分かりやすい、感動した」など会員や地域の人々から広く親しまれてきた。今後は支部会則に沿って支部顧問に就任、引き続き時間の許す限り講演活動や執筆活動を続けるという。

第二次世界大戦の前も、最中も、後の暫くの間も、肺結核は国民病として最も恐ろしい病気であり、殊に若い青年子女が罹ることが多く、様々の悲劇をもたらした疾患であった。BCGの予防接種などの種々の対策もとられたが、結局は生活水準の向上と栄養状態の改善が最も大切な対策であった。この事実は発展途上国でも同様にみられる。

しかし抗結核薬の進歩も忘ることはできない。殊に昭和30年頃の安いイソニアジド(INH)の導入は効果的でその使用は直ちに普及し、ストレプトマイシン、エタンブトルなどの3剤併用は患者に希望を与えるものであり、肺切除を中心とする結核病巣の切除術や、虚脱療法(胸成術など)も多く行われ、全国に多くの結核療養所が設立され、肺結核外科の全盛時代で、私もその一人であった。ところがリファンピシン(RIF)が昭和46年から使われるようになり、結核治療の様相が変ってきた。RIFは結核菌を死滅させる程強力な薬剤であり、患者の喀痰検査で結核菌塗沫(+)で、培養(−)という成績が出始めた。すなわち結核菌は死滅しており培

養しても生えてこないが、死菌として形だけは見付けられるが生きた結核菌ではない、ということである。それなら肺内に空洞や病変の陰影があっても切除する必要がないということが明らかになってきたのである。この事実が分かってきて、肺結核の外科療法は消滅

したのである。ところがその頃には肺癌が急速に増加し始めており、呼吸器外科医は手術の対象を、肺癌、縦隔腫瘍、自然気胸、膿胸などに必然的に切替えていった。また薬剤耐性のある非定型抗酸菌症などには肺切除術を行なう場合もある。

リファンピシン(RIF)という強力な抗結核剤が生じたことにより、肺結核の外科療法がなくなるという事は、私にとっては衝撃的な事態であったが、肺結核患者にとっては大きな福音であった。

癌に対しても、(RIF)のような強力な抗癌剤が出現して、手術せずに薬剤で治せるようにならないものかと、考えてはいるが、癌細胞は性質がよく似たドラ息子のようなものだから、生体(宿主)を傷付けずに癌細胞だけ死滅させることは極めて困難である。

天神  
通信  
41

日本の肺結核と  
肺癌(1)

顧問 大田 満夫

なお、12年度事業計画については九州全域で27回に及ぶ公開講演会や出前講座が開かれ、約2,600人の聴衆が訪れていると報告され、了承された。また13年度事業計画についても佐賀県で開く支部大会をはじめ各県で開く講演会や出前講座の日程について了承した。会計報告、会計予算に関してはほぼ例年通りとなり、「今後も講演会活動を中心に新会員の受け入れに力を入れていく」との基本方針を確認した。

(副支部長・下見直哉)

## 九州支部長就任のご挨拶

この度、大田 満夫先生の後任として九州支部長に就任しました。九州各県の役員ならびに本部との連携を密にし、日本尊厳死協会のみならず九州支部の発展に尽力していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



さて、日本尊厳死協会は、「リビング・UIL」の普及活動を通して、尊厳死の思想「健やかに生き、安らかな最期を迎える」ための活動を行ってまいりました。協会設立当初からの課題の1つでありました「法人化」は、2年前の2010年4月1日に許可され、一般社団法人として再出発しました。現在は、もう一つの重要な課題、自分の最期を自己決定権に基づき選択できる「リビング・UILの法制化」を目指しております。現在の会員数は、全国で12万5500人、九州支部の会員は8600人であります。法制化を達成するためには、多くの人に会員になっていただくことが不可欠であります。これまで以上に「リビング・UIL」の普及活動を推進し会員増加に努めていきたいと思います。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

(九州支部長・原 信之)

岩尾理事長の講演聞き入る

## 佐賀で九州支部総会開く

平成25年度の九州支部総会は4月20日土曜日の午後に佐賀市のアバンセホールで行われた。朝から小雨が降ったり止んだりの底冷えするお天気であったが、元佐賀県の保健環境部長だった岩尾總一郎日本尊

## 九州各県会長のリレー隨筆 14

### 長寿県沖縄の崩壊

おきなわ会長 源河圭一郎



このたび、平成22年の都道府県別平均寿命の順位が発表され、沖縄県の女性が長年、堅持してきた首位の座から3位に転落したことが明らかになりました。男性の平均寿命はすでに上位から陥落し、あらためて事態の深刻さを思い知らされています。

このような結果を招いた最大の原因は、65歳未満の死亡率(早世率)の高さです。米軍占領下で他県に先駆けて欧米風の高脂肪食が普及し、その結果としてメタボリック症候群に代表される生活習慣病の蔓延があり、沖縄県民の肥満率は男女とも全国一です。脳梗塞、心疾患の増加が著明で、腎不全のために人工透析に移行する糖尿病患者が全国最多です。

一方、65歳以上の高齢者に限れば依然として平均余命は全国的に上位であり、早世率が高齢者を含む全県民の平均寿命の足を引っ張っているのです。

戦前戦後を生き抜き、粗衣粗食に耐えた先人達の遺産である全国一の健康長寿県復活を目指し、沖縄県医師会では緊急アピールを発表し、生活習慣の改善等を呼びかけています。

厳死協会理事長の講演ということで、多くの聴衆が集まつた。ただ講演会プログラムが余りにも盛り沢山であつて、古い会員の思い出や、オカリナとギター演奏まで加わり、理事長の「リビング・UILの普及と尊厳協会の役割」についての講演の趣旨が、参会者に十分渗透したことを願つた。九州各県の会長も多く出席し、支部大会の意義を高めていただいた。心からお礼を申し上げたい。

(九州支部顧問・大田満夫)

各県便り  
ふくおか

### 小倉で公開講演会

日 時 7月20日(土)13:30~16:00

場 所 小倉リーセントホテル

北九州市小倉北区大門1-1-17 TEL093-581-5673

講 演 「いきいき健康法・性は心が生きてること」

講 師 山本 文子(NPO法人「いのちの応援舎」)

問い合わせ先 ふくおか事務局 TEL 092-724-6008

# 協会ニュース

KYOKAI NEWS

## ■ 業務執行理事の担当業務

業務執行理事(常任理事会メンバー)のうち業務担当者が理事会(6月8日)で決まった。

本部事務総括	岩尾總一郎
経理・財務	藤嶋喬
事業・広報	長尾和宏、青木仁子
調査・研究	信友浩一、長尾和宏
医事・医療相談	鈴木裕也、長尾和宏、信友浩一
国際	岩尾總一郎
支部	青木仁子
内部監査	古賀順子
法制化	岩尾總一郎、鈴木裕也、 青木仁子、長尾和宏

## ■ 広報委員12人も選任

川合昇(北海道支部長)	橋村襄(東北支部長)
丹澤太良(本部理事)	小林司(東海副支部長)
金川琢雄(北陸支部長)	古田隆規(中国地方支部長)
野元正弘(四国支部長)	原信之(九州支部長)
安達俊郎(本部事務局長)	上坂誠(本部事務局次長)
江藤真佐子(本部事務局係長)	
辰濃哲郎(本部事務局)	
広報委員は、ホームページや会報など広報活動を	
担う。	
広報委員長には、長尾和宏副理事長が就く。	

## あとがき

○…5年ほど前のことです。友人の父親が、末期がん入院していました。人工呼吸器をつけて病床に横たわる父親が、右手で書くような仕草をするので、ペンを握らせると、レポート用紙に書き殴りました。

「早く死なせてくれ」

父親は以前から、「スパゲティだけは勘弁して欲しい」と話していましたが、どうすることもできません。人工呼吸器を外しさえすれば、父親は楽になれる。一方では、抗がん剤で奇跡が起きるかもしれない、心は揺れました。父親は数ヵ月後に亡くなりましたが、あれでよかったですのか、5年経った今も心が晴れません。

○…一生のうちに身近な死に直面することは、そう度々あることではありません。両親の死、連れ添った夫婦の死。肉親の最期に寄り添う数少ない機会に、「尊厳死」を持ち出されても、知識も経験も不足している家

族には、何が「不治かつ末期」なのかを判断することは容易ではありません。

○…かつて脳死移植が議論されていた91年、「臨時脳死及び臓器移植調査会」は、「脳死は人の死ではない」とする少数意見を併記したうえで「臓器移植に限って脳死は人の死である」と答申しました。あいまいな結論しか導き出せなかつたのは、体がまだ温かいのに「死」を受け入れることが、日本人にとって抵抗があったからだと言われています。同じように、「不治かつ末期」のあり様を知らないと、家族は「あれでよかったのか」と悔いを残すことになります。大切なのは、家族が後悔を引きずらないための知識と、心のケアなのかもしれません。今回発足した「日本リビングウイル研究会」が、医療と患者の架け橋になれるかどうか、試されています。

(た)



会報 リビング・ウイル 第150号  
2013(平成25)年7月1日発行  
(1月1日、4月1日、7月1日、10月1日発行)  
  
発行所 一般社団法人 日本尊厳死協会  
発行人 岩尾 總一郎

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501  
電 話 03-3818-6563  
F A X 03-3818-6562  
メール info@songenshi-kyokai.com  
ホームページ http://www.songenshi-kyokai.com  
郵便振替口座 東京 00130-6-16468